

練習の中身を見せ

ちょい

第1部 基礎トレーニング

音のスピード感を揃える(バランス)

第1部では、合奏での表現力を養うためのさまざまな「基礎トレーニング」を紹介！
パッと見、簡単そうだけど、明確に違いを吹き分けて2人の表現を揃えるのは大変。
根気よく挑戦しよう！

前項の「音色を整える」にとっても似た項目ですが、ここではブレンドさせるだけではなく、パートナーとのバランスをとる練習を行います。例えば1stの奏者が威勢のよいファンファーレを吹く下で、2nd奏者が穏やかな演奏をしてしまえば、ニュアンスがはっきりせず表現したいことがあやふやになってしまいます。バランスをとるためには、音量や音色を揃えることが重要であると同様に、音の「スピード感」も重要な要素の1つとなります。

音の「スピード感」とは、言い換えれば、「元気のいい音 ← 繊細な音」「鋭い音 ← 暖かい音」というように、音の持つキャラクターを示しているとも言えるでしょう。いくら音程が合っていても、音のキャラクターが同じセクション内で揃っていないと“揃っている感じ”がしないものです。ここでは、その「スピード感」の意識を2人で合わせるトレーニングをしていきましょう。

- 目的
- ・曲調によって、音のスピードを使い分ける

トレーニングの目的を説明しています。主旨をよく理解してから始めてね！

具体的なトレーニング方法と、どんなことに注意したら2人の演奏が効果的に向上できるか、わかりやすく説明しています。

前半は、2人で交互にB♭音を4つずつ演奏しますが、1stが示した音のキャラクターを2ndが再現するように演奏してみましょう。楽譜上には「テヌート」「アクセント」「マルカート」「スタッカート」で音の変化を示してありますが、それぞれが我を張ってアーティキュレーションを表現することではなく、1stと2ndのキャラクター(=スピード感)を揃えることに意識を集中してください。また、音量の指定はmfですから、急に大きくなったり小さくなったりせずに、音量変化ではない雰囲気作りを心がけてください。

後半は、2人同時に演奏します。音の出だしのスピード感、音の長さ、音量、どちらか一方が飛び抜けることのないように、よく聴き合いながらバランスをチェックしましょう。

[デュオ練習トランペットより]

宇畑知樹先生(監修協力)からのメッセージ

本書で紹介する“2人”で行うトレーニングは、個人練習における“甘え”抜きで自分の音に向き合うことができますし、周囲の演奏を聴きながら、それに合わせたり引っ張ったり、時には引いたりする、いわば“アンサンブル力”を磨くための絶好のスタイルであると考えます。

本書によって、個人のアンサンブル力を磨いて、バンド全体のクオリティを向上させる一助となれば幸いです。(本文より抜粋)

宇畑知樹プロフィール

1984年埼玉県立伊奈学園総合高等学校に第1期生として入学。武蔵野音楽大学器楽学科・管打楽器専攻(トランペット)を卒業。吹奏楽部の指導者として吹奏楽コンクール、アンサンブルコンテスト、マーチングコンテスト、全日本高等学校吹奏楽大会in横浜などの全国大会に出場。平成10年には埼玉県教育長より、平成18年には全米吹奏楽指導者協会(NBA)より表彰を受ける。また、平成24年には全日本吹奏楽連盟より長年出場指揮者表彰を受けた。トランペットを北川晋、杉本峯夫、井上雄二の各氏に、吹奏楽指導法を故井上謹次氏に師事。現在、埼玉県立伊奈学園総合高等学校音楽科主任、埼玉県吹奏楽連盟副理事長。

様々なアーティキュレーションや音量が混ざった練習曲を2つ用意しました。意識することは最初のトレーニングと同じです。実際の曲に出てきそうな動きの中で、音の出だしのスピード感、アーティキュレーション、音の長さ、音量のバランスが2人で等しくなるように、よく聴き合いながら練習してください。

練習曲①

練習曲②

第2部 練習曲

ルネサンス期の音楽

第2部では、音楽様式を意識した演奏ができることを目的とし、各期の代表的な曲を「デュオ」で紹介！

取り上げている音楽様式の「時代」「音楽的な特徴」「代表的な作曲家」を紹介しています。

■時代(15~16世紀)
ルネサンス(Renaissance)は「復興」と訳され、14~16世紀頃に古代ギリシャや古代ローマの文化(絵画、彫刻、建築、文学)の復興を目指し、ヨーロッパで興った文化運動のことで、「ルネサンス音楽」とは、この時代に作られた音楽の総称です。

■音楽的な特徴
ルネサンス期は楽器が未熟なうえ作曲技法もそれほど確立されておらず、複数の声部が調和しながら進行する声楽曲と宗教曲が中心です。音楽家の多くは、典礼・行事・娯楽のための音楽を演奏する専門家として教会や宮廷に雇われていました。純粋な芸術作品としてではなく、雇い主からの依頼によって作曲されたケースが多いのも特徴です。一方で、世俗的な作品も数多く残されています。

■代表的な作曲家
ジョスカン・デ・プレ、デュファイ、ダウランド、パレストリーナ、モーリーといった名前が挙げられますが、吹奏楽の世界では、G.ガブリエリ、プレトリウス、バードの作品がよく演奏されています。

練習曲①

舞曲集「テルシコーレ」より「カナリー」(プレトリウス)

「デュオ」用にアレンジされています。第1部で身につけた基礎を、この第2部で実践してみよう！

L字のカッコは、そこからメロディを担当することを示しています。26ページの「1つのフレーズを2人で演奏する」を思い出して。

[デュオ練習トロンボーンより]

※本文の内容は変更される場合があります。